

■社会実験について

人中心の居心地の良いまちなか形成に向けて、メインストリートである東西軸では、道路空間と沿道空間が一体となり、歩いて楽しく滞在や活動をしたくなるような魅力ある風景の創出を目指している。

令和5年度は、令和4年度に実施した社会実験の結果を踏まえ、沿道事業者等の主体的な関わりを促進し、道路の利活用等を検証する社会実験を実施する。

令和4年度社会実験の結果

- ・主体性の後押しにつながる継続した機運醸成等に向けた取組みが必要
- ・ゆとりある空間の検討が必要

令和5年度社会実験の方向性

- ・社会実験を通じて、キーとなりそうな人の発掘や沿道事業者等の主体的な関わりを促進する。
- ・空間拡幅後をイメージしたゆとりある空間を設け、利活用の幅を広げる。

～中央通りのデザインコンセプト～



将来像のイメージ

賑わいと交流を育む親しみやすいデザイン

気軽に立ち寄れるオープンなお店の店先で交流が生まれ、まちの賑わいや人々の活動が広がる通り

■令和5年度 社会実験の概要

【日程】
令和5年11月25日（土）、26日（日） 2日間（おにクル開館前日～当日）

【場所】
中央通り・JR茨木駅付近の車道（側道）

【目的】
沿道事業者等の主体的な関わりを促進し、道路の利活用等を検証する。

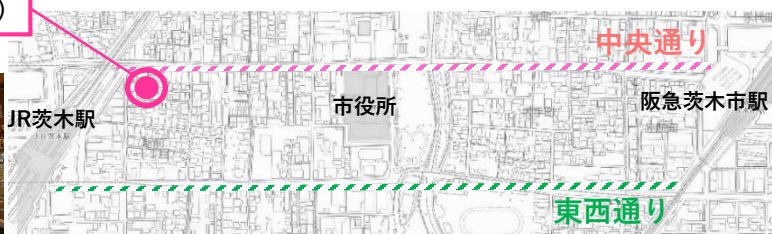
【内容(案)】

- ・木製デッキ等の敷設によるゆとりある空間を創出
- ・沿道事業者等による飲食・物販ブースの出店
- ・昼は子どもが楽しめる遊具の設置、夜はナイトバルなど2つのシーンで多様な利活用が生まれる仕掛け
- ・プランターや暖色系ランプ設置等による魅力ある景観の演出

【進め方】

- ・社会実験の構想段階から、沿道事業者等やまちづくり団体とヒアリングを重ね、社会実験に合わせてやってみたいと思うことを丁寧に収集する。

【場所】中央通り・JR茨木駅付近の車道（側道）



【配置イメージ】

駅前町歩道橋 中央通り（府道139号）
茨木市駅前1丁目交差点 沿道店舗

木製デッキ敷設
車道に木製デッキを敷設し、歩道とのフラットな空間を創出

魅力ある景観の演出
プランター設置、暖色系ランプ設置 など

①【昼】子どもゾーン
子どもが楽しめる場
・MOPPS(大きなブロック遊具)

【夜】ナイトバルゾーン
食事・飲酒できる場
・カウンターテーブル設置 など

②にぎわいゾーン
道路を使って様々な「コト」を展開する場
・飲食・物販ブース

③くつろぎゾーン
デッキ上で座ったり、食事を楽しむ場
・椅子、テーブル設置 など

④案内
社会実験の案内
・案内看板
・意見を集めるボード
・沿道店舗の情報発信 など

■関連する取組(DIY企画)

- ・沿道事業者等のやってみたいことの具現化の一つとして、社会実験前から「アーケードの柱の色塗りワークショップ」を実施する。（講師：連携しているまちづくり団体）
- ・沿道事業者等が集まり、通りの将来や通りでやってみたいこと等を考える機会とする。

